

開通に向けて加速するインド初の高速鉄道事業 今後の日印連携による第3国への展開も視野に

パワフル・インド（政策関連）～ インド高速鉄道プロジェクト～

▶ 足もとの高速鉄道事業

インドの鉄道の歴史は古く、1853年に最初に鉄道が開通、当時インドを植民地としていたイギリスが綿花や石炭、紅茶などを輸送するためボンベイ（現在のムンバイ）からターナーを結ぶ約40kmの路線を建設しました。日本で最初の鉄道は1872年の新橋-横浜間であり、インドの鉄道はアジアで最初の鉄道となります。

近年は著しい人口増加や経済成長、都市化によりインド国内の鉄道旅客・貨物輸送量は急増しており、近代化及び輸送能力の強化に加え高速鉄道の整備などが求められてきました。そしてインドでは日本の新幹線方式を採用したインド初の高速鉄道の導入を2015年に決定し、2017年に工事が着工しました。

当初は2023年全線開通予定でしたが、土地取得の遅れや新型コロナウイルスの感染拡大などもあり開業は大幅に遅れました。現在では土地の習得はほぼ終了し、土木工事の発注完了も発表されるなど事業の進捗が加速しています。

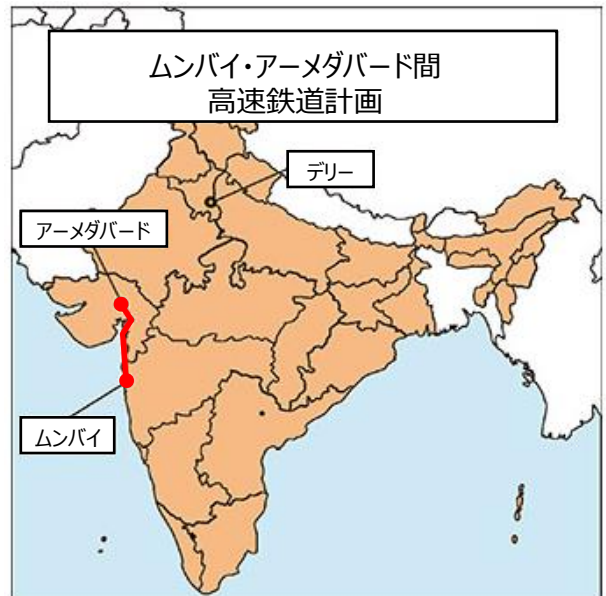
インド高速鉄道は、主要都市ムンバイと商工業の中心として近年急速な発展を遂げているグジャラート州のアーメダバード間の約500kmを、これまでの3分の1の約2時間で結ぶもので、日本の自動列車制御装置や通信システムの整備、高速鉄道車両の導入などを日本の新幹線システムにて実施することで旅客輸送能力の向上や安全な輸送サービスの実現を目指しています。また、将来的にはニューデリー、ムンバイ、チェナン、コルカタ、ハイデラバードなどの主要都市を高速鉄道で結ぶことも視野に入れていきます。

▶ 高速鉄道事業の先も

日本の知的財産と安全技術、そしてインドの豊富なエンジニア人材や労働力を組み合わせることで相乗効果を生み出し、両国の協力により他のインド国内プロジェクトだけでなく、第3国への展開も期待されます。

インドの高速鉄道計画

方式	日本の新幹線
列車	JR東日本のE5系を基にした車両を開発
着工	2017年
営業開始時期	未定（2026-2027年？）
事業費	約1兆8,000億円
資金調達	円借款とインド政府支出
区間	ムンバイ～アーメダバード 約500km （東京・大阪間に相当）
所要時間	約2時間
最高速度	320 km/h



ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会